

2020年度 分野別計画進捗等報告書

体系番号
02010203

1. 計画名称

茅野市文化芸術推進計画

2. 計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	やや遅れている	説明	コロナ禍により市民館や中央公民館の利用者数が大幅に減少し、事業の多くも中止となった。一方、美術館収蔵作品展入場者数は前年比増となった。また、対面による活動とオンラインとの併用等新たな手法への取組みもみられた。文化芸術活動に親しむきっかけづくりとしての事業や人材育成、文化財や地域資源を使つての事業、各種施設整備等により、文化芸術を絶やさぬよう支援していく。
今後の重点化施策番号	1	説明	コロナ禍は継続しているが、多くの市民が日常的に多様な文化芸術活動を楽しみ、表現し、創造することができるよう、活動の見直し、機会の充実、環境の整備に努めていく。関係団体との連携により進める。

3. 各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	地域文化の創造と文化芸術活動の推進	やや遅れている	コロナ感染症の影響を大きく受け各施設の来館者数は減少したが、オンラインの活用や参加者の制限により新たな手法で事業を展開し、新規利用者の幅を広げることができた。来年度、市民館中長期改修計画を基本とした、舞台特殊設備更新工事と機械設備二次劣化診断を実施する予算をつけることができた。	オンラインの活用によりこれまでと違う取組ができる施設と十分な環境が整っていないため従来どおりの方法でしか対応できない施設がある。又、利用者の特性(年齢層など)でも事業展開が異なり、コロナ対応が壁になる場合もある。市民館舞台特殊設備更新工事等を計画通り実施するため関係者との調整が必要。	コロナ禍においては、対面式とオンラインの併用により更に活動の幅を広げるよう各方面からの支援を検討していきたい。また、関係団体との連携を図っていく必要がある。市民館機械設備二次劣化診断の実施により、今後必要となる改修及び更新工事について関係部署と調整していく。
2	文化芸術活動に関わる人材の育成	やや遅れている	コロナ感染症の影響により文化芸術活動の場は減少したが、感染症対策の徹底により、活動を続けていくための機会づくりの提供や、情報発信を行った。舞台など映像の配信により実際に会場に行かなくても、また、限定された期間でなくてもだれもが鑑賞する機会や発表する機会を構築することができた。	コロナ感染症の影響により、文化的なイベントの自粛が続いている中、芸術家が市内で活躍できる機会や市民等と交流する機会を創出することのできる取組の検討は今後も課題である。	文化庁などによる文化芸術活動への支援策の活用について情報提供を行っていく。また、コロナ禍においても全ての市民が文化芸術に触れる機会や、次世代を担う子どもたちの創造力を育む取組が様々な場所で展開できるよう、学校、施設、指定管理者、NPO等と協力・連携し実施していく。
3	文化の継承による魅力ある地域づくりの推進	おおむね順調	前年度に引き続き文化財の価値を損なうことなく、地域文化遺産の保護・保全がされた。美術館収蔵作品展ではコロナ禍においても多くの入場者があった。	公立美術館の役割である資料収集について市が寄附等検討委員会を設置し審査を行うことになっているが、コロナの影響により会議が開催できない状態である。適正な収集と活用ができるよう検討していきたい。	現状を的確に把握、保存・整備し公開することで、文化財保護の意識を高めることにより、次世代へ継承する取組を進める。今後も、郷土にゆかりのある作品を広く活用し、市のアピールにつなげていく方策の検討が必要。寄附等検討委員、指定管理者との連携の中で検討、推進していく。
4	文化芸術を活用したまちづくり	やや遅れている	コロナ感染症の影響により計画した事業の実施はできなかった。地域資源を活用した旅行商品の開発は引き続き行うことはできた。	伝統的な祭りや文化財・芸術作品の展示、映画祭、アートプロジェクト、イベント等といった地域の文化資源や文化芸術活動を産業・観光・福祉などの分野で活用し、多くの市民に取組への興味や関心を持ってもらえるような展開が必要である。	これまで第1回ハケ岳JOMONライフフェスティバル開催に向け企画してきたが中止となり、今後の展開も大きく変更される方向になったが、「縄文」を活かしたまちづくりはこれまでどおり推進していく。

※5つ以上の場合は裏面へ

4. 関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

		主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称	文化芸術推進委員	市民館では創造的事業の実施や新たな事業展開への推進が図られた。公民館活動においては人材育成(後継者)、建物の老朽化は課題である。コロナ禍において、できることを探するための検討の場を持つこと、感染対策の徹底や対策内容の周知、また、感染防止対策の実績を活かす情報共有は必要。縄文を活かした芸術文化都市を目指したい。また、文化芸術ビジョンを見える化するなど充実が求められる。	感染症対策として館の使用制限は、活動の縮小につながり非常に残念であったが、その中で実施できることを探り、新たな事業展開を進めることができた。各方面と協力・連携し文化芸術を支える人材づくり、地域づくり、まちづくりの裾野を広げ、文化芸術の持続的な推進を図りたい。
開催回数	意見集約		
参加延べ人数			
関連市民団体等名称			
開催回数			
参加延べ人数			

5. 添付資料

別紙「施策評価シート」